

4月1日より、「Futsal Happy Smile Project」

“被災地の子供達が「笑顔」になれる”

そんな場所や機会を提供することをコンセプトに発起人として、「相根澄」、選手代表として「藤井健太」が先頭に立ち、全国のフットサル選手の協力の元スタート致しました。

プロジェクト最初の活動として、20日の始業式を前に、被災地の子供達に「ランドセルを届ける」「一緒に運動をする」ことを目的に、宮城県石巻市へ向かいました。地元のサッカーチーム「コバルトーレ女川」、山形県にあるサッカーチーム「フォルトナFC」の協力の元開催。三重県にある老舗ランドセル会社の「タケコシ商事」、府中のサッカーチーム「ストロングボーイSC」の積極的な協力により、120個のランドセルを用意することが出来ました。

当日は午前9時から午後2時までを予定し、何名の子供たちが集まるのか避難生活を送る中なので全く予想が付きませんでした。始まってみると石巻、女川だけではなく松島、東松島といった近隣の町からも集まってくれました。約160名の子供達が、震災後初めてのボールの感触、体を思いっきり動かす事の高揚感に満ち溢れ、我々の心配を吹き飛ばすかのように躍動していました。

また、会場には、同行いただきましたFCフォルトナのスタッフの方々が、「きつねうどん」「芋煮」の炊き出しを一緒に行って頂きました。山形名物の「芋煮」は大きな特注の鍋を使い300人前を調理する大がかりなもので、ここでも子供達は大喜びでした。

最後に、この訪問の目的である「ランドセル」120個を配り、グラウンドの周りにいた父兄の方々も、子供達の手を取ってランドセル選びに目を輝かせていました。

ボールをけることに始まり、炊き出し、ランドセルや水などの物資の配布まで、ほんのひと時ではありましたが、スポーツの持つ力を感じ、可能性を確信でき、今後の「Futsal Happy Smile Project」の第一歩として実りある時間となりました。

と、第一回目の活動を報告させてもらったのが今年の4月、それから約1年が経過致しました。

被災をしていない地域では、震災のニュースが毎日流れる日々から、普段通りの生活が戻りつつあります。その事で、被災地の事を、だんだん忘れられる機会も増えてきました。

我々は、1年間で約 60 回の被災地での活動を行って来ました。

笑顔で元気いっぱい走り回る子供達の周りには、道路に積まれた瓦礫の撤去や、食料など復興してきた反面、まだまだ現状は変わっていない所が沢山あります。

目に見える部分は良くなりつつありますが、家の中の瓦礫はそのままだったり、仮設住宅に住まれている方もまだ約26万人もいらっしゃいます。まだ水の出ない地域も残っているんです。

被災をしていない地域では、普段通りの生活が戻ってきました。

その事で、大震災が起こったということを忘れられる機会も増えてきました。ただ、今回の震災は、1年や2年で復興するようなものではありません。間違いなく長い年月のサポートが必要なんです。

ですので、毎日とは言いません。今一度被災地に目を向けて頂く機会を少しでも作ってもらえると幸いです。みなさんのほんの少しの気持ちも、被災地ではとても大きなパワーに変わるはずですよ。

ぜひ、皆さんと一緒に、日本を強く復興していきましょう。

特定非営利活動法人日本フットサル振興会 理事長 相根澄

気持ちも新たに新年度の活動をスタートさせようとした直後の2012年3月11日、「東日本大震災」が発生し、たくさんの尊い命が奪われました。日本中が深い悲しみに包まれる中、私たちは、「フットサルを通して、復興のために何ができるのか」ということに思いを巡らせました。

そして、「子供たちが“笑顔”になれる」そんな場所や機会を提供するべく、「Futsal Happy Smile Project」を立ち上げました。

フットサルを通して得た、かけがえのない仲間たちと力を合わせ、被災地へ出向き時間を忘れて子供達とふれあい、笑顔を取り戻してもらえよう励んでまいりました。

今後も、日本が復興を遂げるその日まで、「Futsal Happy Smile Project」の活動を続けてまいります。